

心房細動に対するカテーテルアブレーション治療での僧帽弁閉鎖不全症への効果を検討

1. 研究目的・方法

僧帽弁閉鎖不全症と心房細動はともに関連しているという報告がありますが、心房細動を治療することで僧帽弁閉鎖不全症も改善していくのか、それとも変わらないのかという報告はほとんどありません。ましてや再発率が高くなるのであればアブレーションの適応からも除外されていく可能性もあります。2018年1月から2018年12月にかけて心房細動に対してカテーテルアブレーション治療を施行した方で、術前の経胸壁心エコーで器質的心疾患がなく、僧帽弁閉鎖不全症を認めている方を選択し、治療後に行いました心エコーでの僧帽弁閉鎖不全の評価及び再発率を評価検討します。

2. 研究に用いる試料・情報の種類

術前術後の経胸壁心エコーデータ

3. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

濟生会熊本病院 循環器内科 研究責任者 金子祥三

住所 熊本市南区近見5丁目3番1号

電話番号 096-351-8000 (病院代表)

以上